強い候よし此一決次第時勢如何一變仕候哉難計外寇旁
皇國不容易儀に御座候得共是迄弱柔にゐ姑息ゑ事而已多く今日ゑ勢可戰
は戰ひ可和は和すと申候事は強ゐ無之次第に國脈衰微致し候故一振致し
熱血ゑ中よりなり立候方却ゐ
神州ゑ元氣を引起し可申と唾手相待居申候乍然舊來如御承知私性質狂氣
輕躁にゐ平生と非常に相違可仕哉と自分係念大言も難被申候一心勉強仕
申候此度十七義士ゑ中にも佐野竹之助と申すものは當年廿二歳にゐいた
く戰い創も數ケ所有之脇坂ゑ門中にゐ死すはだ着え　敷島の錦の御旗捧
け持
皇御軍の先駈そせん　と朱にゐ記し居候よし實に不堪感涕次第に御座候
昨今ゑ模樣は政府より御地政府ゐ逐一申越候由に御座候間別段不申上候
前田宍戸中村諸翁も定ゐ壯盛此度儀には一方ならす大悅と想思仕候實に
三日ゑ朝は空中にもから〳〵と笑し聲も聞へ候樣覺申候先日已來武器取

（前田宍戸中村は前田孫右衛門宍戸九郎兵衛中村道太郎の三人なり）

調仕且又彼是尻もすわり兼御國えも兎角書狀も差出不申候故いつれえも
御無沙汰已に相成申候右三翁えも御序乍失敬私無事ゑ段御致聲奉願候其
中時下御自愛第一に奉存候草々九拜

三月廿二日　　小五郎（花押）

（正兵衛は長藩士竹内正兵衛なり）

二　竹内正兵衛宛書翰　文久元年五月八日

拜啓先以
上々樣益御機嫌克被遊御座御互奉恐悅候將又老兄彌御壯榮被爲成御精勤
奉大賀候二弟碌々消光仕候間乍憚御放意奉願候偖府下も別に相變り候儀
無御座御承知ゑ通去三月已後局面少しも相變不申故何事も赤門ゑ蹤を踏
み候事のみ多く如此姿にては所詮元氣を引起し候と申事はとても出來申
間敷對州ゐ滯在仕居候魯英佛等も種々難澁申募候に付小栗又一輩先日彼

（小栗又一は小栗豐後守忠順にて幕吏なり）

地ゟ出足仕候得ども中々彼輩が手合候事所詮六つヶ敷世間ゟ見込に御座候英ゟコンシュルも

（竹内下野守は竹内下野守保徳なり）

京城ゟ立寄候様是非申立候由に付先月竹内下野守と申外國奉行兼御勘定奉行ゟ人物右斷旁急に出足仕候處是も同く世間の見込にゟは余程六つヶ敷かるへくと總ゟ國事日益非なり然るに公邊向余程内謁被行安藤閣老去年三月已來固より廓外ゟは一度も不出漸く登城仕候にも駕籠脇三十人も連申候實に如此風情にゟとても國脉を維持仕候事不思寄然と雖も天が下神州ゟ民たるを不免草莽ゟものと雖も固より盡力不仕ゟは不相成誠に諸侯方は其御任に御座候所いづくも同じ秋の夕暮楠氏も足利も辨別出來候人更に無御座候御國近境如何ゟ模様に御座候哉世間ゟ有志も吾藩を望を歸し居候間少しは其目途無御座ゟは彦根等ゟ事も人ゟ前にも嘶も出來不申候來島も世上ゟ風評通り早々御決着有之候ゟ再役被仰付度江戸勤中は余程勉勵仕候間一際引立候様に被考候も一と重に來翁ゟ力と毎々奥平數

（來島は長藩士來島又兵衛）
（奥平數馬は長藩士なり）

（前田翁は前田孫右衛門）

馬輩と噂已仕居申候今以前田翁も其儘ゟ由實に國家起臥ゟ隙に立ち忠勵之を捨置候事いかにも合點行不申候早々侍御にも御拔擢は不相成候哉承り候得は長井も出府仕候由林も留守此好機會に中道當りと御相談被爲成候て麻田翁どもと御周旋は出來申間敷哉此好機會を失し候ゟは所詮遂に六つヶ敷禿頭侍御等少々不理屈を申陳し候とも公明大正ゟ御議論にて推付られ可申と奉存候爾他申上度儀も御坐候得ども禿筆に難盡追々可申上候其中時下御自玉第一に奉存候匆々頓首拜

（長井は長藩士長井雅樂なり）
（林は長藩士林主税なり）
（中道は中村道太郎麻田翁は周布政之助）

五月八日

尚々別帋乍御面倒御序ゟ刻奉待候拜

正兵衛老兄御直披　　小五郎拜

三　毛利登人、大和國之助宛書翰

文久三年十一月十五日

木戸孝允文書「追加」（文久三年十一月）

今朝入御覽候返答も兎に角不仕ゟは不相成候に付別帋ゟ通申越候ゟ格別障りは無御座候哉御一見奉願候病氣と内使と申事虚言にゟ些心外に御座候得共不得止次第にゟ認申候其余は丸に心に無ゟ事にゟは無之僧も隨分心切に有之候得ども丸に薩に愚弄され居候もの付余り詫し越候ゟも却ゟ不十分

（僧は大宰府の僧寛量）

御誠意不相立ば道とゝもに斃ゟ厭ずと申純一ゟ志を申陳し候までゟ處よろしくと奉存候に付かく相認申候無御用捨御添削奉願上候頓首九拜

十五日　　小五郎

登人
國之介　各老臺

（登人は長藩士毛利登人國之助は同藩士大和國之助）

（裏面）高許

表命謹讀縷々御苦心ゟ程奉恐察候上座坊ゟゟ御草案拜見仕候處如命御誠意御貫徹ゟ御存意純一ゟ處奉冀候事に付僕等格別氣付筋無之一々感服仕候何卒早々御出仕相成候ゟ可然奉存候書外拜語に諾申候草々頓首

即

只様御用手間取御答遲延奉恐入候以上

登人
國之介　各老臺拜答

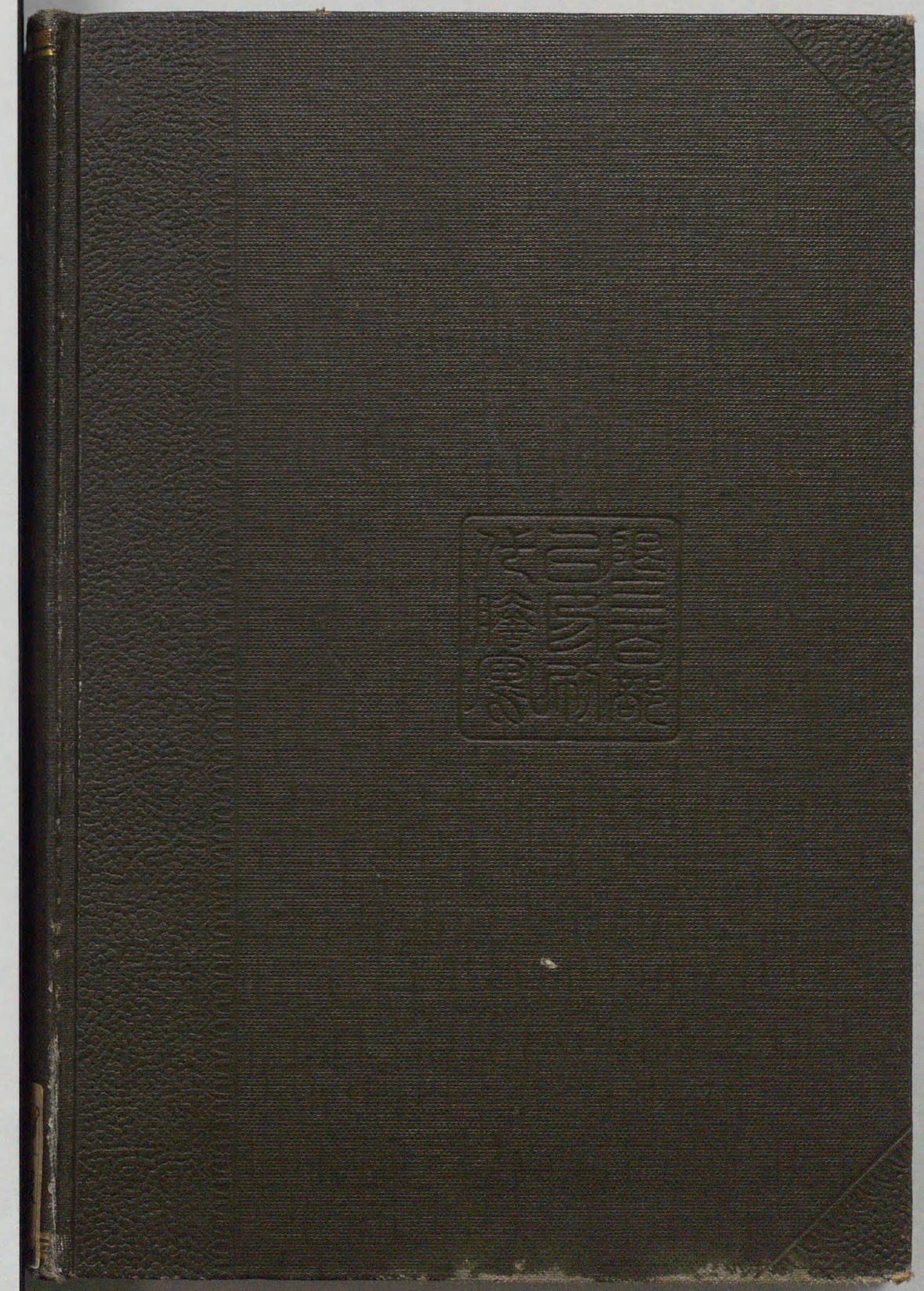
昭和五年二月二十日印刷
昭和五年二月廿五日發行

木戸孝允文書第二
非賣品

木戸公傳記編纂所藏版
木戸公傳記編纂所代表者
編纂者　妻木忠太
東京市四谷區新堀江町三番地
日本史籍協會代表者
發行兼印刷者　早川良吉

不許複製

エ九九-A


BUILD OF
PUNYA
KARMA